

福大病院ニュース

診療日案内

診療科名	血液・糖尿病科	消化器科	腎臓内科	循環器科	呼吸器科	神経内科	健康管理科	総合診療科	精神神経科	小児科	小児外科	外科第一	外科第二	整形外科	形成外科	形成外科	脳神経外科	心臓血管外科	皮膚科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	放射線科	麻酔科(メインクリニック)	歯科口腔外科	リハビリテーション科
診療日	毎日	毎日	月・火・水・木・金	毎日	月・火・水・木・金	毎日	毎日	毎日	※予約制	毎日	毎日	月・水・金	火・木・土	毎日	月・水・木・土	※予約制 月・木	月・水・金	火・木	毎日	※予約制 月・火・水・木・金	火・木・土	毎日※水・土は再診のみ	月・水・金	火・木・土	月・火・水・木・金	月・水・金	毎日	

【診療受付時間】 (休日除く)
 ※休診日：日曜・祝祭日、盆休(8月15日)、年末・年始(12月29日～1月3日)
 初診：(月～金) 8時20分～14時
 (土) 8時20分～11時
 再診：(月～土) 8時20分～11時
 ※産婦人科の初・再診受付は8時20分～11時

—お知らせ—
9月5日より眼科外来が新しくなります。
 ●外来日は週5日(月～金)
 ●診察時間は午前・午後に分かれます。
 午前は新患・一般再診(11:00まで受付)
 午後は専門外来となります。

交通のご案内



六本松・別府2丁目バス停から
 14番、18番、114番、140番で福大病院経由のバスにご乗車ください。(所要時間 約15分)

西新から
 脇山口バス停で、95番の福大病院経由のバスにご乗車ください。(所要時間 約30分)

自家用車で来院の方へ

九州自動車道、都市高速を利用する場合
 九州自動車道を利用される場合、北九州方面の方は福岡I.Cで、久留米方面の方は太宰府I.Cで、それぞれ都市高速に乗り換えて、百道RPで降りてください。そのまま国道263号線を直進し、干隈三叉路で左折、七隈四ツ角を右折して進むと右側に病院が見えてきます。

国道202号線バイパスを利用する場合

※ 六本松方面から来られる方は、別府・中村学園大学前の交差点を左折し、直進して油山方向へお進みください。七隈四ツ角を進むと右側に病院が見えてきます。
 ※ 原方面から来られる方は、荒江四ツ角を右折し、干隈三叉路を左折、七隈四ツ角を右折し進むと右側に病院が見えてきます。

国道263号線を利用する場合

※ 荒江方面から来られる方は、干隈三叉路で左折、七隈四ツ角を右折し進むと右側に病院が見えてきます。
 ※ 曲淵方向から来られる方は、野芥四ツ角を右折して直進し、病院南口より入ると病院が正面に見えてきます。

いずれの方向からも、「福大病院入口」の表示があります。

※ 駐車場はございますが、狭いので、なるべくバス・地下鉄などをご利用ください。駐車場は、すべて有料となります。

地下鉄で来院の方へ

「福大前」での下車となります。下車後、徒歩1分です。
 改札口を出て右側(2番出口)が福岡大学病院方面となります。定員20人乗りの一般用のエレベーターが設置されています。
 ※ 「天神南駅」からご乗車の場合(所要時間 約16分)
 ※ 「橋本駅」からご乗車の場合(所要時間 約8分)
 ※ 「福岡空港」、「博多駅」からの場合、「天神駅」で乗りかえます。天神地下街を通過して七隈線「天神南駅」から乗車となります。

バスで来院の方へ

「福大病院前バス停」での下車となります。

天神から(所要時間 約30分)

天神コア前バス停(7B)乗り場、あるいはダイエーショップ前プラザ前(9)乗り場からの場合、福大病院経由の14番のバスにご乗車ください。
 天神協和ビル前(10)乗り場、あるいは天神福ビル前(12)乗り場からの場合、福大病院経由の140番のバスにご乗車ください。

博多駅から

博多駅前バス停(A)乗り場から18番あるいは、福岡交通センター1階(4)乗り場で福大病院経由の114番にご乗車ください。(所要時間 約40分)

福岡大学病院

〒814-0180
 福岡市城南区七隈7丁目45-1
 TEL (092)801-1011(代)

発行：医療情報部
 URL：http://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供



患者さまの権利について

医療は医療者と患者さまとの信頼関係で成り立っています。患者さま一人一人が医療の中心となり、以下の権利と責任(患者さまの権利に関するリスボン宣言)があることを福岡大学病院の職員一同は認識します。

1. 患者さまは常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 患者さまは医師や病院あるいは保健サービス施設を自由に選択し変更する権利があります。
3. 患者さまは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて、十分に説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否の決定を下す権利があります。
4. 患者さまは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. 医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。
6. 患者さまは健康について保健教育を受ける権利があり、自分の健康に対する自己責任があります。



放射線部第二
(放射線治療・核医学診療部門)
部長 **桑原 康雄**

核医学の診療について

この度、4月1日付で放射線部第二に赴任した桑原康雄です。放射線診療はCTなどの放射線診断、密封されていない放射性同位元素を用いる核医学、リニアック等を用いた放射線治療の三つに大きく分けられますが、放射線部第二ではこのうち核医学と放射線治療を行っています。今回は、私が専門としている核医学についてご紹介いたします。

[核医学とは]

核医学は密封されていない放射性同位元素を用いて診断や治療を行うものです。診断としては脳、心臓、肺、腎、骨などのシンチグラフィが主なものですが、病気の種類に合わせて適切な放射性薬剤を選ぶことにより、いろんな臓器の診断を行うことができます。最近、マスコミ等で話題となっているPET検査もこの核医学検査に含まれます。治療としては甲状腺機能亢進症や甲状腺がんを対象とした放射性ヨード治療があります。

[核医学検査の特徴と検査法]

核医学検査の特徴は脳血流や骨代謝などの機能を反映した画像が得られることにあります。このためCTなどの形態検査では分かりにくい病変の検出や治療効果の判定などに有効です。また、全身の画像が容易に得られるため、病気の拡がりの検査にも適しています。検査は放射性の薬を静脈から注射し、身体の中の様子をシンチカメラという特殊な装置を使って撮影します。シンチグラフィの断層像をスペクト (SPECT, single photon emission tomography) と言いますが、写真は福岡大学病院に設置してある3検出器型のSPECT装置(シンチカメラ)です。



写真:スペクト装置

[核医学検査の安全性]

核医学検査では放射性同位元素を静脈注射あるいは経口投与するため、危険なように思われている方がありませんが、検査に用いる放射性同位元素は少ないため、身体の害になることはまずありません。放射能の被ばく量は胃透視検査と同じくらいです。核医学検査でよく用いられるTc-99mは6時間で放射能が半分に減るため、次の日には大部分がなくなってしまいます。また、物質の量としてきわめて微量なため、造影剤のような副作用もなく、安全な検査です。

[核医学検査の有用性]

核医学検査が役に立つ病気を少し詳しくご紹介します。脳は血流により運ばれた栄養分を使って活動しています。したがって、働きのよいところはたくさん血が流れていますが、働きが鈍ると血の流れが悪くなります。また、動脈硬化などにより脳に行く血管が細くなると血めぐりが悪くなり、細胞の働きが鈍ってきます。脳血流シンチグラフィは脳に集まる放射性の薬を静脈から注射し、脳の血流の様子を調べるものですが、得られた画像からコンピュータを使って自動的に異常部位を検出するソフトウェアが開発されており、アルツハイマー病などの認知症の早期診断に威力を発揮しています。骨シンチグラフィは腫瘍の骨転移検出に用いられていますが、腫瘍が転移するとその骨の代謝が盛んとなり、薬が取り込まれることを利用しています。骨が壊れる前に診断できるため、感度がよいといわれています。肺がん、前立腺がん、乳がんでは骨転移を起こしやすく、骨シンチが有用です。Gaシンチグラフィはリンパ腫や黒色腫などの腫瘍の広がりや炎症部位の検出に用いられます。心筋シンチグラフィは心臓の血の流れを運動や薬物を投与しながら測定し、心筋梗塞を起こすかもしれない部位を事前に検出することができます。このような部位が発見された場合は血管を広げる治療をすることになりますが、治療効果の判定にも有用です。腎臓は左右に分かれて二つありますが、腎シンチグラフィを用いると別々に血流や機能を調べることができます。尿が膀胱に流れていく様子が観察できますので、水腎症のように尿の流れが悪くなる病気の治療方針を決めたり、治療後の効果判定に役立ちます。

[PET検査について]

PET検査はFDG PETが2002年に保険適用されたのをきっかけに急速に普及しつつあります。FDGはブドウ糖をF-18という放射性物質で標識したのですが、特に肺癌や悪性リンパ腫ではなくてはならない検査法となりつつあります。また、脳や心臓の病気の診断にも利用できます。PET検査は本院ではまだできませんが、私自身は長年の経験があり、精度の高い核医学検査を提供できるよう、なるべく早い時期にPET装置を導入したいと考えています。

[放射性ヨード治療について]

甲状腺はホルモンを作るためにヨードを取り込む性質があります。この性質を利用して放射性のヨードにより甲状腺機能亢進症(バセドウ氏病)などの治療を行うのが放射性ヨード治療です。日本では放射線への危惧からあまり普及していませんでしたが、欧米では標準的な治療法です。抗甲状腺剤のような重篤な副作用がなく、安全で治療効果の高い方法です。以前は入院が必要でしたが、数年前に法律が改正され、外来でもできるようになったため、治療を受け易くなりました。以上、核医学診療についてご紹介いたしましたが、安全な検査であることを改めて強調いたします。

総合診療科のご紹介

当科は平成17年4月に新設されたプライマリーケア(初期診療)の実践と教育を行う診療部門です。近年の医学や生命科学の発達はめざましく、それを反映して、実地医療の場でも診療科は細かく分かれ高度に専門化・効率化しつつあります。また、地域での医療連携がすすみ、各々の医療機関はそれぞれの特徴をいかし、機能を分化させつつあります。一方、患者さんの側からみると、いざ病気にかかった時、いったい自分は何の医療機関の何科にかかればいいのか迷うことが今後いっそう多くなると思われます。はっきりと専門科がわかる場合は問題ないのですが、自分で判断して最初から専門科を受診し、その専門科の疾患ではないとわかった時は、その方はさらに次の専門科をさがして受診することになります。また、複数の疾患や症状がある場合は、さらに受診する科を選ぶのが難しくなります。そういった時こそ私たちプライマリーケア医が必要とされるのです。

プライマリーケアは、病気の初期(急性期)に、適切な診断と初期治療を行う事を旨としています。病気は患者さんにとって生活や仕事に大きくかかわる一大事です。医療者側にとっては、疾患は細かく分類されるべきものですが、患者さんにとっては「健康がそこなわれた状態」としかいえません。プライマリーケア医はその患者さん個人がどんな問題を持っているのかを整理し、今後患者さんが健康を回復するためにできるかぎりの初期対応を行います。従いまして、プライマリーケア医は高度な専門知識よりも、全科にわたる幅広い医学知識と経験が必要です。また、その場限りの対応でなく、病気の予後を予測し、今後どこでどのような治療が必要になるかといった判断力も必要になってきます。専門家志向が強い現在、むしろ地域医療に必要とされる優秀なプライマリーケアを担う医師の養成が急務です。

福岡大学病院総合診療科は、内科外来にて、現在は主として内科系のプライマリーケアを行っています。血液・糖尿病科の田村部長が初代の診療責任者で、その下にスタッフが二人と、こじんまりとした所帯です。専門分野にかたよらずに外来診療一般についての初期診断・治療を行います。診断のついていない、あるいは難しい疾患、複数の科にまたがる複合疾患などを最も得意としています。必要な場合は、適切な専門外来や地域の通院しやすい医療機関に紹介するというゲートキーパー的な役割も担います。平成17年度は、月曜から土曜日まで主として内科外来において紹介状を持たない患者さんの診療を行います。近い将来は、1次2次救急医療と入院治療も行う計画です。また、若い医師の外来診療教育にも力を注いでいます。その日に診療した外来患者さんに関しては、毎日カンファレンスを行い、研鑽を積んでいます。当科はプライマリーケア・地域医療を担う医師の研修・教育の場という性格を有しており、研修を希望する医師には大きく門戸を開いています。

曜日別外来診療担当医表

平成17年7月1日現在

		月	火	水	木	金	土
総合診療科	初診(一般内科)	鍋島・上原	鍋島・柏木	鍋島・柏木	鍋島・柏木	鍋島・柏木	鍋島・柏木
	再来(午後)	鍋島	鍋島	柏木	鍋島	柏木	



総合診療科診療責任者
田村 和夫



医局長
鍋島 茂樹